

# しゅか 芝上

誕生秘話編

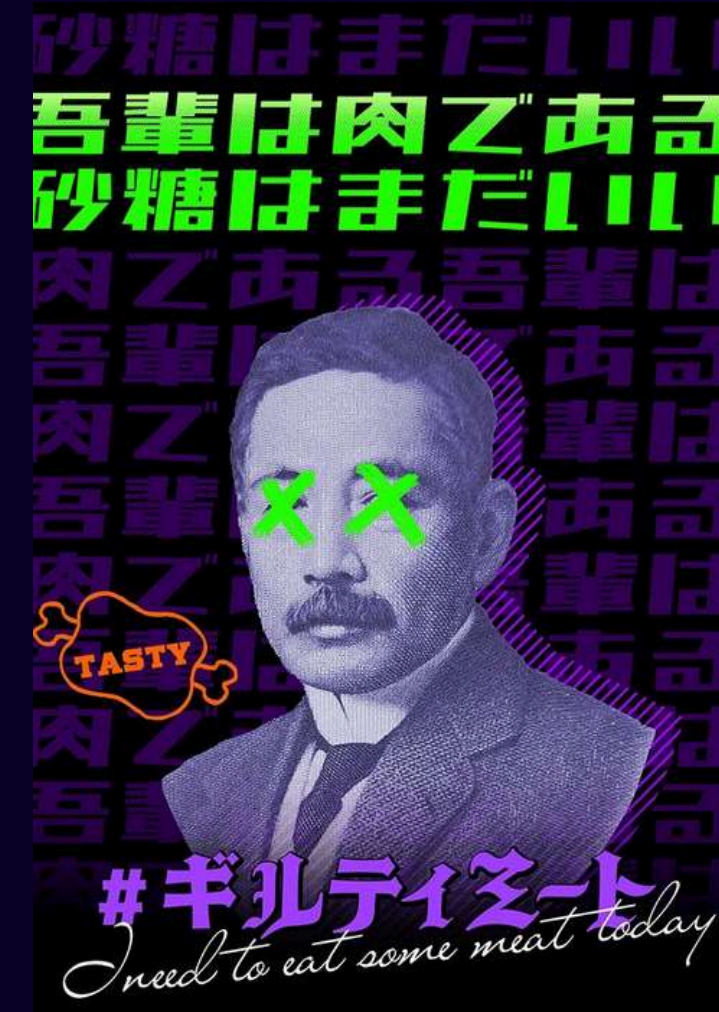
# しゅか 芝上

# 甘さと罪、可愛さと背徳感。

#しゅがーほりっく = 中毒スイーツ専門



#ギルティミート = 罪なお肉専門



VS

#しゅがミトが目指したいのは、ただの「可愛い」でも、ただの「おいしい」でもなく、

甘さ・中毒性・罪悪感・肉々しさ可愛さ・強さ・遊び心・本気  
そういうものが全部混ざった、“ただの可愛いじゃない魅力”です。

#しゅがミトは、食べて、笑って、盛り上がるイベントです。

でも、それだけではありません。

このイベントが目指しているのは、誰かの記憶に残る「楽しかった日」を

まちの中につくることです。イベントの内容だけではなく

私かなぜこのイベントをやりたいと

思っているのか。その根っこの部分をお話ししたいと思います。



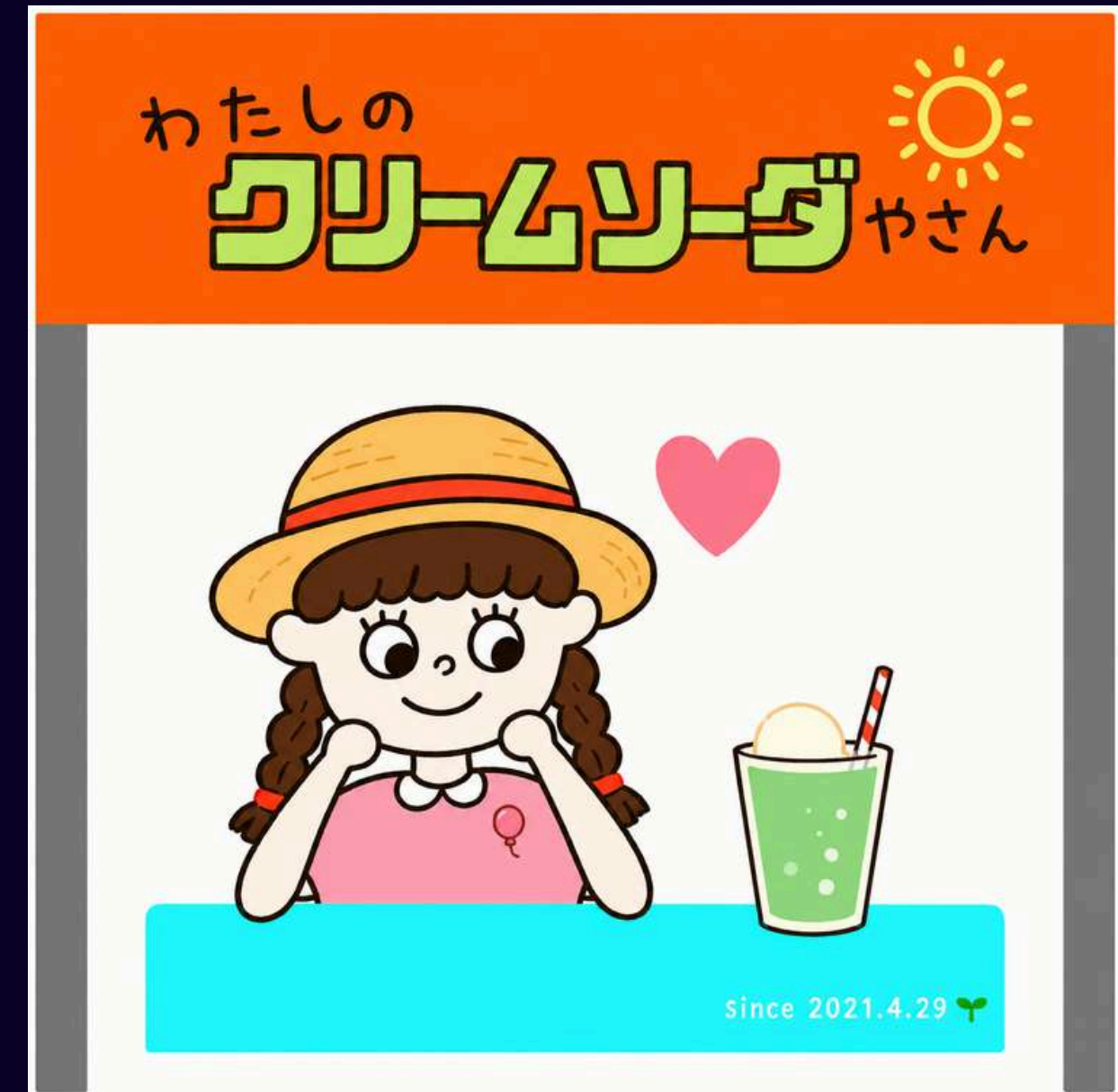
私が#しゅがミトをやりたいと思っている

気持ちの根源には、

大学4年生の時に同級生3人で挑戦した、

わたしのクリームソーダやさん」

という活動があります。



# #しゅがミトの根っこにあるもの



大学2年の冬にさかのぼります。新型コロナが流行して、学校にも行けない。友達にも会えない。趣味もできない。私にとって、絶望にちかい状態でした。

本当なら、学生生活最後の、一番キラキラしているはずだった時間が、何もできないまま過ぎていきました。

「このまま大学を卒業してしまうのは嫌だ」と思って挑戦した力強くて泥臭くて、可憐で可愛い1年間。

コロナ禍で失われかけた学生最後の時間に自分たちの手で楽しい場所をつくらうとした挑戦でした。



# キラキラしているのに、すぐに溶けてしまう



クリームソーダって、可愛い。

キラキラしていて、シュワシュワしていて見ただけで特別な気持ちになる。

でも時間が経つと、アイスはすぐに溶けて、色は濁ってしまう。

それが、当時の自分たちの「大学4年生」という時間に重なりました。

もうすぐ終わってしまう。でも、まだ何かを乗せられるかもしれない。

まるで、クリームソーダにまもなくトッピングが乗りそうな、その瞬間みたいでした。



# お客さんは、“見ている人”から“一緒にいる人”になった。



わたしのクリームソーダ屋さんでは、毎回、朝礼と終礼を撮影して、Instagramで配信していました。  
内容は、元気に挨拶をすることと、「今日も頑張ります！」くらいの短い一言。

でも、それを続けていくうちに、少しずつお客さんが一緒に映ってくれるようになっていきました。  
1年間限定のお店でしたが、閉店する頃には、朝礼にも終礼にも、必ずお客さんがいた。  
お客さんはただ商品を買いに来る人ではなくて、物語に参加してくれる人になるんだと教えてもらいました。

これは、私にとって「つながり」の成功体験でした。



# 「あなたもこの物語の一員でした」を形にしたかった。



束通り1年間を走り抜け、大学卒業と同時に閉店をしました。

閉店の時には、お客さんの名前を書き込める冊子をつくって、卒業証書として手渡しました。

ただ終わるのではなく、「あなたもこの1年間を一緒につくってくれた人です」

ちゃんと自分の言葉で感謝を伝えたかったからです。

私にとって、イベントやお店は、商品売るだけのものではありません。

誰かの心に、“しまっておきたい記憶”を残せるものだと思っています。



# 「あなたもこの物語の一員でした」を形にしたかった。



して今、#しゅがミトは、その時の物語の続きを背負っています。  
わたしのクリームソーダやさんに、毎週通ってくれた高校生がいました。  
みんな、いまでもご縁が続いている、とても大切な存在です。  
そのうちの一人が今、#しゅがミトの実行委員として一緒に活動しています。

わたし、#しゅがミト実行委員会のみんなのこと、大好き

みんなそれぞれ違うルーツで、違う経験を積んできた。  
今こうして一緒に活動できていることが、とても嬉しいです。

チームの最年少は、2026年現在高校3年生。

2022年に高校3年生だった彼が22歳になった今  
もっと下の年齢の子が、また今、私たちのそばにいてくれる。

物語は巡る。あの時と同じような軌跡が、また始まろうとしています。



# 無邪気なキラキラの、その先へ。

大学時代は、ただ無邪気な、眩しいくらいのキラキラをつくりたかった。

次は。そのキラキラが熟していく様子をつくっていきます。

ただ食べ物を売るだけではなく、ただ人を集めるだけでもなく、

その日を見た誰かの記憶に残って、いつかその人が、次はつくる側になるかもしれない。

そんなつながりを、もう一度、何度でも巻き起こしていきます。

#しゅがミトの世界観は、ただ可愛いだけではありません。

甘いけど、少し毒がある。楽しいけど、少し背徳感がある。

可愛いけど、どこかトゲがある。

#しゅが一ほりっくと、#ギルティミート。ふざけているように、でも本気です。

# 遊ぶように暮らしを営んでいきたい

私の根源には、こうやって、いつまでも  
遊ぶように生活を営んでいけたら幸せだなという気持ちがあります。

遊ぶ、というのは、ふざけるだけのことはありません。

ただの場所を、物語のある場所にする。

ただの一日を、記憶に残る日にする。

ただのお客さんを、登場人物にする。

そうやって、暮らしの中に遊びを差し込んで、常を少しだけ特別に変えていくこと。

#しゅがミトは、そんな生き方をみんなで試していく場でもあると思っています。

#しゅがミトを、物語が巡っていく場所にしていきたい。





私は、まちづくりも、こういう遊び心から始まっていいと思っています。

ただの場所を、物語のある場所にする。ただの一日を、記憶に残る日にする。

ただのお客さんを、登場人物にする。

そうやって、暮らしの中に少しだけ遊びを差し込んで、日常を特別に変えていく。

#しゅがミトは、そんなことを試しているイベントです。

正直に言うと、このイベントのゴールは、まだはっきり決まっていません。

でも、だからこそ、どこにでも行けると思っています。

実行委員が自分の色を足して、出店者さんが自分の物語を持ち込んで、お客さんが記憶を持ち帰って、その記憶がまた、誰かの次の挑戦になる。

そんなふうに、みんなで描いていくイベントにしていきたいです。

**私たちは、ただイベントを運営しているんじゃない。**

誰かの記憶に残る「楽しかった日」を、自分たちの手でつくっている。

その日を見た誰かが、いつか、つくる側になることを夢見て・・・

**#しゅがミトは、そういうつながりをもう一度起こす場所。**

#しゅがミトは、肉と砂糖に溺れる、背徳の一夜です。  
でもその奥にあるのは、まちと人の物語です。

ぜひ、遊びに来てください。応援してください。

そしてできれば、この物語の一員になってください。  
#しゅがミトを、物語が巡っていく場所にしていきます。